

「精神」結果値のアンカーポイントについて

- 精神症状の評価は主観的評価に偏りやすく、評価者によって結果値の評価がばらつくことが多くあります。そこで、(－)、(±)、(＋)、(++) それぞれのアンカーポイントを作成し、評価の標準化に活用できるようにしました。

【++ (日常生活への影響大)】

症状は本人の行動を支配するほどに強度であり、日常生活が根底から蝕まれ崩壊している。

【+ (日常生活への影響小)】

症状が表面化しており確実に存在しているが、本人の行動への影響力は軽微であり、日常生活は成立している。

【± (頻度少)】

症状が表面化する頻度が少なく、不確かか軽微であり、介入の必要がない。

【－】

症状なし。